保育士・幼稚園教諭養成教育における学生の学びを深める授業の試み
～過去６年間の特別講演をとおして～

Trial of motivating students in training course nursery and kindergarten teachers
～Through special lecture in the past 6 years～

森田清美　庄子いと子　笠間典美
Kiyomi Morita Itoko Syouji Norimi Kasama

はじめに

仙台市にある東北文化学園専門学校の保育福祉科は、近畿大学豊岡短期大学通信教育部子ども学科と学務提携をしている３年課程の専門学校である。平成７年に保育福祉科の学科を新設し、昨年度までに保育士・幼稚園教諭となる卒業生を１０期生にわたって社会に送り出した。翌年、平成２０年３月、幼稚園教育要領（以下、要領）と保育所保育指針（以下、指針）がほぼ１０年ぶりに改訂、告示された[1) 2)]。要領では教諭は子どもの就学前の準備を意識的に育てていくことがより重視され、預かり保育の保育内容の見直しや小学校との連携強化ということから示されているように全体的なレベルアップが要求されている。また、指針では保育士や保育所の自己評価が義務づけられ、職員の資質向上と専門性の向上を図る努力が必要とされ、施設長の責務においても学びの体制整備、職員の自己啓発などが新たに記載されている。したがって、要領や指針の改訂において、国を挙げて就学前の子ども達を育てる機関としての幼稚園・保育所の役割を自覚するために新しい改訂へ託した。これらから要領や指針の中では今まで以上に幼稚園教諭や保育士の専門性が求められ、自己研鑽と研修の必要性が重要な課題となっている[3) 4) 5)]。

しかし、求められる保育者の専門性は、高度化・多様化する中で、保育者を目指す学生の実態は、社会全体を理解するにはそれまでの経験、実社会で求められるマナーや社会的常識、学びの深まりに乏しい。また、豊かな経験よりもアルバイト重視等、学生の価値観やライフスタイルも大きく変化し、社会で求められる社会人像とのギャップがますます広がっている[6)]。さらに、拡大する格差社会の中で感性を育む豊かな経験や学力においても、学生の入学当初からの差が見られる。

このような実態の中で、保育者の養成教育での段階は、準備教育であって保育職について以降、子

どもや職員、保護者との関わりや研修等、養成教育と自己研鑽によって専門性や技術を習得していくと言われる[7]。とはいえ、現場では早期保育、子育て支援、未就学児教室など開園の業務に追われることもあり職員会議でのケース討議などの時間を取る機会も困難であることも多い。そして、最近はベテラン保育者といわれる立場の保育者は、保護者対応に関わる時間も多く、新任や実習生に接するベテラン保育者が丁寧に指導する時間が減少しており、保育者同士が育ちあう関わりをも築けていないのが現状である。

これらの状況を踏まえ、今後の保育者自身の生活力や人間としての資質が問われるようになり、生涯かけて学び、自己研鑽によって人間性と専門性の向上に努めていく学生をどう教育すべきなのかという課題が浮上した。

そこで、本学ではこれらの課題に取り組むべく、6年前から「特別講演」という学校側から学生側へ積極的学びの機会を作った。趣旨は、全学年の学生に授業ではなかなか得られることの出来ない保育に深く関わる児童文化財や伝統芸能、劇、演奏会等、完成度の高い作品や登場人物に触れることで保育しての豊かな質の高い感性の育成とそれによって今後の学習に意欲が持てるようにすること、学生の生活体験不足の底上げ、そして卒業生が再び母校で学ぶ機会を保障し、保育者としての質的向上を期待することである。観賞型の人形劇や影絵等には近隣の保育所や幼稚園の子ども達を招待している。小川は保育者になりたいと考えている学生に、実習だけで理論と実践をつなぐことは困難なことから、親子に関わる機会や環境を提供することが必要だと指摘している[8]。こういった取り組みは学生が幼児と触れ合う機会や引率の保育者の動きを観察する等の実践的な学習環境作りにもなっている。このような目的で行われてきた「特別講演」であるが、さまざまな問題も見えてきている。

本研究では、これまでの過去6年間の特別講演の軌跡をたどり、成果や今後への見直し、課題等の基礎資料を得ることを目的とする。

考察

調査の方法は、本学の全学科の稟議書が保管されている資料室で共同研究者3名が6年分の資料を年度ごとに割り当てて、資料調査を行った。「特別講演」に関する資料を抜粋し、それぞれの教員が担当した講演記録、曖昧なものは卒業生へメールや電話で連絡を取り、追跡調査を行った。また、講演内容や受講の様子については担当した教員にインタビューによる調査を行った。調査期間は平成20年7月1日～9月30日までである。特別講演の内容はほぼ明確に調べることが出来た。その特別講演内容とそれを担当した講師の一覧を表1から表6に示した。

表1　平成14年度特別講演

日程	特　別　講　演　内　容　・　講　師
7/26	講義：施設実習指導／講師：仙台市重症心身障害児(者)守る会「すてっぷ」萩原理央氏

7/29	講演：子どもを見る目～保育者に求められるもの～／講師：緑ヶ丘第二幼稚園園長　三塚百合子氏
1/18	実技：わらべうた／講師：宮城わらべうたの会　金子きくえ氏
1/25	講話と実技：絵本・紙芝居の魅力／講師：「横田や」店主　横田重俊氏
2/22	実技：幼児の体育指導法／講師：幼児体育研究所　中地裕人、加藤弘樹氏
3/6	講演：外国人の方の子育て／講師：ネパール、ガーナ、インド、イラク、バンクラデッシュの留学生の家族
3/8	コンサート：ピアノ、バイオリン、チェロのアンサンブル演奏／講師：ヴァイオリン 齋藤恭太氏、チェロ 塚野淳一氏、ピアノ 菊池陽子氏
3/11	講演：施設実習指導／講師：仙台市重症心身障害児(者)守る会「すてっぷ」　萩原理央氏、丘の家子どもホーム　鈴木美子氏

表 2　平成 15 年度特別講演

日程	特　別　講　演　内　容　・　講　師
9/16	人形劇：「しりたがりのぞうさん」／講師：人形劇団「プーク」
9/16	ワークショップ：「タオル人形作り」／講師：パペットデザイン　山村エナミ氏
2/19	講演・実技：ワークショップってなぁに？／講師：ハート and アート空間ビーアイ関口玲子氏
3/2	実技：うたって遊ぼうコンサート／講師：オフィッス NOBO　旅芸人　福尾野歩氏
3/5	コンサート：「子どものうた」／講師：声楽家 陣内紀美子・斎藤翠氏、演奏家 赤間聖子氏
3/8	講演：保育現場での子どもとのかかわり／講師：「先生ママみたい」著書　石丸(徳江)るみ氏
3/9	映画：「朋の時間～母たちの季節～」－重い障害ともつ子どもたちの存在・家族の人生－出版社：マザーバード・ファクトリー

表 3　平成 16 年度特別講演

日程	特　別　講　演　内　容　・　講　師
7/1	人形劇:「おれはママじゃない！・にんぎょうおもちゃ箱」／講師：人形劇団「プーク」
7/1	ワークショップ：「ウレタン人形を作ろう」／講師：パペットデザイン　山村エナミ氏
3/1	講習：乳幼児の応急手当（上級救命講習）／講師：救急サポートセンター職員
3/2	講演：絵本を作るということ／講師：世界文化社ワンダー絵本編集者　中澤由梨子氏
3/7	講演・見学：重症心身障害児施設の現状と保育士の役割／講師：エコー療育園園長
3/7	講演：保育者に求められるもの／講師：緑ヶ丘第二幼稚園園長　三塚百合子氏

3/8	講演：児童養護施設の男性職員として、父親として／講師：丘の家子どもホーム　太田聡氏・岩垂浩司氏
3/9	実技：作って遊ぼう／講師：宮城県レクリエーション協会　今野あや子氏、山内直子氏、橋浦孝明氏
3/11	コンサート：ピアノ名曲を聴く／講師：石井みか氏、小針知子氏、佐々木美穂氏、赤間聖子氏

表4　平成17年度特別講演

日程	特　別　講　演　内　容　・　講　師
2/20.21.22	講習：救急救命講習会（幼児安全法支援員）／講師：赤十字社宮城支部講師
2/27	講演・ワークショップ：これまでの図工、これからの美術～子どもたちと考える表現の原理～／講師：宮城県美術館学芸員：斎正弘氏
2/28	講演：乳児保育について～乳児院と保育園の両方の視点から～／講師：虹の丘保育園園長武田穎子氏
3/1	講習：乳幼児の応急手当（上級救命講習）／講師：救急サポートセンター職員
3/2	講演：子どもと共に育ちあう／講師：やまびこ幼稚園教諭　鈴木香名氏
3/2	コンサート：エレクトーン、ギター、歌によるミニコンサート／講師：上野あずさ氏他2名
3/3	人形劇：「おこんじょうるり・くるみ割り人形」／講師：人形劇団「プーク」
3/6	講演：保育現場における児童虐待の対応について／講師：宮城教育大学　関口博久氏
3/9	実技：わらべうた遊び・文学遊び／講師：宮城県わらべうたの会　金子きくえ氏
3/11	実技：雀踊り／講師：仙臺雀踊壹番組の皆様

表5　平成18年度特別講演

日程	特　別　講　演　内　容　・　講　師
7/8	実技：保育実技セミナー／講師：ラーメンちゃん&あきらちゃん
9/22	実技：保育実技セミナー／講師：あきらちゃん&りかちゃん
12/2	朗読劇：「この子たちの夏」1945・ヒロシマ・ナガサキ／講師：麦わら帽子の会
3/6	コンサート：ピアノリサイタル／講師：阿部陽子氏
3/6	映画：子どもの時間／出版社：株）マザーランド

表６　平成19年度特別講演

日程	特　別　講　演　内　容　・　講　師
7/4	実技：雀踊り／講師：仙臺雀踊壹番組の皆様
5/19	実技：保育実技セミナー／講師：ラーメンちゃん&あきらちゃん
10/4	影絵：「だるまの夜話、飛べないホタル、白いりゅう黒いりゅう」／劇団：みんわ座
2/6.7	講習：救急法　／講師：赤十字社宮城支部

これらから調査した６年間の「特別講演」についての考察を以下に述べる。

１）講師の選定と講演内容

講師には、保育職に関わる現場の先生や実践家を招く機会が多かった。これは専門職に対する考え方やプロ意識を感じるように設定した。また、卒業生にも講師として招き、在学生が先輩方の活躍を見られる機会とすることも考慮している。学生は講師の講演を通して職に対する厳しさも感じられたのではないかと思われる。講演内容の選定は、年度初めに学科教員である程度検討し、実技、講話、コンサート、映画、講習などを取り混ぜて、子どもに深く関わる内容のバランスを考慮しながら、聞かせたい、経験させたいという講師を選んでいる。時期は、全学年が参加できるように実習のある６月、９月、１１月に当たらない時期であることや卒業生の参加も考慮し、できるだけ土曜日を選び設定している。

２）受講方法と申し込み状況

特別講演は年度内に約７、８回の設定を計画し、学生にはその中から最低１回参加するよう促した。その結果、学生は必ず一人１回は参加していた。受講方法は、講演が確定したものから順に募集を行い、学生はその時々に興味あるものを選択し、担当教員へ申し込む。年度によって日程が近い講演の場合は、学科教員の協力を得て、申し込む教室をいくつか設定し、学生には３学年同じ日時に申し込みするよう伝え、申し込み完了を意識させるためにチケットを配布するという方法を取った。また、卒業生には本学のホームページのプログに特別講演の案内を載せ、直接電話で担当教員に申し込む方法を取っている。受講の申し込みは人数制限のあるものは先着順とし、定員になり次第終了した。この時、自ら登録の手続きをしないで友達を介しての登録をして、他の学生が不平等性を訴えてきた。それ以後、講演の内容の選択や日程、登録方法、運営等を学生と共に行うことも考えた。こうした経験は、現場でのプログラミングをする際の経験になるのでないかと考えられる。講演の内容からの申し込みの状況を観ると、実技、コンサートや講習などの参加型の講演に集中する傾向があった。教室の広さの問題や講師の方からの人数制限がある場合には、２回講演にする等柔軟に対応していた。学生の中には、申し込みの基準が短時間で済むものを選ぶものや開講講座に全く興味・関心を示さない学生においては、当然のことながら、意欲・態度に差がみられた。受講人数は、それぞれの講演につ

き２０～３０名の学生が必ず受講していた。

３）参加する学生への期待

本学に入学をする学生の多くは、「大人になってもたくさんの折り紙や鬼ごっこが出来る」、「私は、ピアノを弾くのが得意だから活かせる」、「私は、子どもが大好きで世話をするのが好き」等と漠然とした保育者への夢を抱いて入学して、卒業すれば資格が取得できて直ぐ就職に結びつくと考える学生が多い。こういった学生の認識は、保育職として身につけるべき資質を曖昧なものとしてきたその現れである[9]と考える。「保育者として求められる資質とは」何だろうか。保育者として身につけることとして、一人一人の成長や発達を育むために日々の指導計画を立てなければならない。また、目の前のクラスの子ども達だけでなく子どもを取り巻く家庭や地域も把握していなければならない。また、子育て支援センターとしての役割を果たす資質も要求される。そして、これらを実行する為に“知識及び技術”が大事ということが言われているが、その基盤は保育者一人一人の価値観であり、感性であろう。「保育者としての感性を磨くこと」、そして、“人格面での豊かさ”を求めることが最も大事であるということを学生の日常生活を観察して感じるところであった。その為、できるだけ完成度の高い生の演奏や舞台観賞の経験を取り入れ、生の迫力を実感し感動する心を経験して、日常生活の中でも学生自身が通学途中で見つけた花を見つけて「きれいだなぁ」と感じる気持ちを持ってほしいと考えた。

特別講演に参加後の学生の授業態度にも影響していたことから、このような経験が保育者を目指し入学してからの学生の保育への興味や学ぶ意欲、動機付けを行う意味では学生の意識付けにも効果的であると考える。学生全員がこのような思いはならないのが現実であるが、継続することによって、少しでも多くの学生に感じてもらい、自分を磨く手立てを見つけたり、向上心をもって日常生活を過ごしてほしいと考えた。これが、就職してからの土台になるのではないだろうか。

４）現場の理解

当養成校での、特別講演の取り組みがボランティア先の施設や実習園などで話題になることがあり、現場の先生方からは、この取り組みに共感を得ていただき、学生の態度からよい印象を得て貰ったということもあった。また、現場の先生方からは、「短大での２年間の養成では豊かな感性を育むために必要なゆとりがない、こういった取り組みが出来るのは３年課程でのメリットですね。」、「今の学生は２年間では社会の常識、マナー、仕事をする。という心構えが出来ないのでしょう。」という声が多かった。このような現場からの意見は、現場と養成校の間での取り組みへの理解や保育者の養成観や指導観への共有につながっていくと考える。

おわり

毎年、保育者を目指す学生の資質向上を課題として「より良い保育者」になって欲しいと願い各教員が其々の「良い」と思う価値基準で特別講演の企画を出し、学科内で一年間の講演内容のバランスを討議し実行をしてきた。年度により実施回数にばらつきがあるのは予算との兼ね合いや他の行事の進行状態での時間的な余裕の有無である。このような状況の中、担当科目の授業を持ち、担任制での学生対応、実習巡回指導、その他他学科との関わりや教員業務を行いながら教員は、特別講演を企画・実行する。教員の特別講演への意義付けと学生の育ちへの意義を意識した強い思いがなければ、その実行は中々困難であった。

「良い保育者」はそれぞれの学生がそれぞれの学習や体験から試行錯誤しながら求めていくものだと考える。大切なことは「試行錯誤」できるかという点である。「自主性尊重」などと言っていながら無意識のうちに自分の考える子ども像の枠の中に子ども像を押し込めてその枠から外れた子どもに対しては受容できず、子どもを見る目も保育活動も「試行錯誤」しない保育者になってしまうことを憂う。6年間のこうした取り組みが学生の資質向上に繋がり学生が人間として豊かになり保育の枠を広げ「試行錯誤」する保育者に育つきっかけの一つになっていることと信じて行ってきた。卒業した学生の様子からまいた種の成育がすぐに見えるかを感じたいが、それは特別講演が直接関係しているという確認は当然ながら取れない。

しかし、子どもが保育者の後姿から育つように学生も私たち教員の後姿から何かを感じて育っているのだとすれば教員が「より良い保育者」になってもらいたいというメッセージを持って様々な特別講演を企画・実行する姿や講演をしてくださる講師の方の仕事への情熱や専門性の向上を伝えてくださる気迫や内容に何かを感じてくれていると信じたい。また、各分野の専門性のある講演内容は、学生の学習意欲を刺激し、分野への興味とより深く知りたい、学習したいという気持ちを持つことができる場の提供になったであろう。

けれども、この特別講演の設定は、教育課程外の授業であるため、学生の受講に対する強制力を持たないことや受講後の評価もしていない。学科の運営方針においても特別講演についての明確な記載がされておらず、その中身の取り扱いが曖昧で、教員の認識も異なる。また、講演の企画は個々の教員が一手に担い単発に終えるため、学科全体としての事業報告書として記録されていない。以上のような状況の中で、今後も「特別講演」という独自の教育課程外の授業とするならば、「楽しかった授業」に終わらせずにその講演の内容が、受講した学生の気づき、実習や現場に活かされているのか、卒業生が必要としている研修内容なのか等、講演後の内容の質を評価し、フィードバックすることが求められる。また、講演内容の選考・企画・実行を個々の教員の努力・工夫だけでなく、学科ぐるみの取り組みが必要と考える。

以上、成果や問題点などを掲げてみたが、保育者自身の生活力や人間としての資質は、生涯かけて学び、自己研鑽によって人間性と専門性の向上に努めていくことで奥深く豊かになるのであるならば、

このような保育者の養成校としての取り組みを今後も積み上げていきたいと考える。

謝辞

本研究に協力してくださった東北文化学園専門学校の奥田美由紀先生、永沼和子先生、千田聡先生、廣田幸子先生、小田幹雄先生の５名の先生方、事務局員の土屋玲さんに心より感謝いたします。

参考引用文献

1）文部科学省告示第 26 号. 幼稚園教育要領. フレーベル館. 2008.
2）厚生労働省告示第 114 号. 保育所保育指針. フレーベル館. 2008.
3）民秋言．保育所保育指針の成立と変遷. 萌文書林. 2008.
4）最新保育資料集 2008 補遺. ミネルバ書房. 2008.
5）無藤隆．幼稚園教育要領改訂のポイント．株）ベネッセコーポレーション　ベネッセ次世代育成研究所．PP2-7．2008.
6）全国保育士養成協議会専門委員会. 保育士養成システムのパラダイム転換―新たな専門職の視点から―. 保育士養成資料集第 44. PP114-115．2006.
7）全国保育士養成協議会専門委員会. 保育士養成システムのパラダイム転換Ⅱ―養成課程のシークエンス検討―. 保育士養成資料集第 46．2007. P53.
8）小川清美.「今、保育者養成で求められていること」幼児教育. 1 月号．PP10-11．2007.
9）全国保育士養成協議会専門委員会. 保育士養成システムのパラダイム転換Ⅲ―成長しつづけるために養成校でおさえておきたいこと―. 保育士養成資料集第 48. PP16-17．2008.
10）森上史朗. 森上史朗対談集. 人間・子ども・保育. フレーベル館. PP3-9．PP251-275. 1988
11）小田豊・笠間浩幸・柏原栄子・編著. ライブラリ保育　福祉を知る「保育者論」. 北大路書房. PP5. 18. 31. 32. 2003.